

1 目指す学校

八王子市立横山第一小学校は、豊かな自然と温かな地域を十分に生かしつつ、公教育の目的である基礎学力の定着・向上と人間形成をバランスよく育成するため、個に応じたきめ細かな教育活動を展開し、保護者・地域の信託に応える学校づくりを進める。

2 学校経営の基本的な考え方

学校教育目標(育てたい子供像)

「生涯にわたってよりよく生きる力」の基礎をはぐくむ学校
希望をもって、自ら伸び、育つ子を目指す

・考える子(知) ・助けあう子(徳) ・元気な子(体)

(1) 基本理念

生涯にわたってよりよく生きる力を「自分の人生を自分の責任で生きていく力」「社会との関わりの中で自分を生かす力」と捉え、知・徳・体の基礎基本の指導を中心に教養と品格を育み、地域、社会に貢献できる人間を、義務教育9年間を視野に入れて育成する。

(2) 中期的目標と方策

① 児童が成就感、満足感を味わえる学校

自己実現の場所が随所にあり、学習、行事日常活動を通して必要なことをしっかりと学び、その上に立った練習、努力で児童自身が自らの進歩、成長を実感できるようにしていく。

② 教職員が専門職としての自覚と高い指導力をもち、協働し学び合う学校

教育者として児童や保護者との確かな信頼関係を築くため、一人ひとりが日々の言動に責任をもつとともに常に向上心をもち、互いに協働し、切磋琢磨する中で個人の力量、組織としての力量を高めていく。

③ 保護者・地域と共に歩む安心・安全な学校

地域運営学校として保護者・地域と協働しながら、共に知恵を出し合い子供たちの豊かな成長を支える様々な教育活動を推進する。校内外の環境や安全体制づくりについても、保護者・地域との連携を深め、子供にとって安全・安心で居心地のよい学校を実現する。

④ 義務教育9年間を視野に入れた教育活動を行う学校

中学校と協働し、連携を図る。互いの違いを認識し、それぞれの良さを生かしながら、他のグループ校とも連携を密にして、小中連携を推進していく。そのために小中学校が教育活動や研究活動等を意図的、計画的に行っていく。また、その成果を検証しながら、充実・発展させていく。

(3) 今年度の重点

「考える子ども」を重点目標とし、わかる・できる授業を徹底し、学力向上に向けての組織的な取組を充実させていく。特に、GIGAスクール構想に基づいた、時間・空間を超えた活動や学習の個性化や個別最適化をした学びを日々実践し、主体的な学びや対話的な学びや深い学びを通して、思考力・判断力・表現力を向上させていく。小中一貫グループ校の連携を密にして、地域に根差した小中一貫教育を更に推進していく。グループ校で家庭学習重点週間を設定し、グループ全体で、家庭学習を推進し、家庭学習の習慣化を行っていく。

3 学校の現状と令和6年度に向けた取組方策

学校経営の充実を図るための以下の観点について、次のような方策を考える。

○はちおうじっ子ミニマム並びに習得目標問題レベルの学力の定着と向上

国や都や市の学力調査の結果において、個人差が大きく、学年構成によって平均の変動が起こる。そのため、今後も基礎学力の定着と向上のための継続した指導が必要である。個別最適化した指導の充実、ユニバーサルデザインの観点を踏まえた合理的な配慮、ICTを活用した、わかる・できる授業の推進、教師個々の指導力の向上、学力向上策に基づく組織的な授業改善を推進していく。横一プラス(全学年週1回朝学習)を充実させると共にミライシードのドリル機能を有効活用した家庭学習を通して、確実にはちおうじっ子ミニマム並びに習得目標問題レベルの学力の定着を図る。

○言語活動、読書活動の充実

各教科等の指導に当たっては、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語活動を充実させる必要がある。また、読書は知的活動を推進し、人間形成や情操を養う上で読書習慣を身に付けさせることは大切である。そのために学校司書を活用し、本の読み聞かせやおすすめ本コーナーや蔵書等の充実を図り、学校図書館の利活用を更に推進する。

○社会性・人間性の育成

日常生活や社会における常識、礼儀、規範意識の指導を充実させ、社会との関わりの中で自分を生かす力を育てていく。それと共に自分と社会の関係や社会の仕組み、自らの生き方を考える指導やよきリーダーを育てるためにリーダーシップを育む指導の充実も図り、自分の将来に対する夢や希望をもつことができるようにする。また、副籍交流や特別支援学級と通常学級の交流及び共同学習を推進していく。

○健康の維持・推進

義務教育9年間を見通して、一貫した健康教育の充実と推進を図る。保健集会や保健指導等を充実させ、健康に関する関心を高め、自ら健康を維持増進する態度を育成する。また、体力調査を基に児童の体力の実態と変容を把握し、組織的にコーディネーショントレーニングや36の動きを意識した活動等に取り組み、体育指導を充実させ、課題の改善を図る。

○オリンピック・パラリンピック教育の推進

本校で取り組んでいるSDGsの中に、東京2020の精神「Be better, together／より良い未来へ、ともに進もう」を取り入れ、子供たち一人一人にボランティアマインドや障がいを理解する心や多様性を受け入れる資質等を育て、学校2020レガシーとして教育を推進していく。

○安全・安心の確保

学校が子供たちにとって安全で安心して過ごせる場とするために安全指導・安全点検を充実させるとともに、学校安全計画に基づく校内外の安全体制整備と教職員の危機意識の更なる高揚を図っていく。また、いじめ、不登校ゼロを達成するために、週1回のいじめ対応の時間を充実させ、スクールカウンセラーと連携し、早期発見・早期対応による迅速かつ適切な指導を推進していく。

○保護者・地域との連携

保護者・地域の学校教育に対する関心は高く、年間を通して様々な形で教育活動への支援や協力がある。地域運営学校として、家庭、地域の教育力を有効活用し、学校関係者の学校教育への理解を深めるとともに、教職員にも地域行事等へ積極的に参加させ、保護者・地域との連携を更に充実させる。

○特色ある学校づくり

縦割り班活動の内容の充実を図り、子供たちの自主・自律を促進させる。日本遺産や地域環境を生かした体験学習等に取り組み、郷土愛を育むとともに、地域に愛着を持てるようにする。地域の教育力を生かし、近隣大学と連携した専門性の高い授業や留学生との交流、専門家による飴細工教室や三味線教室等、体験的な授業を充実させる。

○組織体としての学校機能の発揮

社会の急激な変化や児童・保護者のニーズの多様化等、学校として対応しなければならない課題が山積している。そこで全職員が、学校として統一した方針に基づき、指導に当たり迅速で組織的な対応をしていく。そのために、5S(Safety・Security, Speedy, Smart, Systematic, Saving)の徹底とライフワークバランスを推進しながら、教職員の意識、指導体制、学校運営体制等の更なる改善を図る。